

事業報告書

2019年4月1日から2020年3月31日まで

一般財団法人教育支援グローバル基金

1. 主要な事業の成果

一般財団法人教育支援グローバル基金は、2019年4月から2020年3月に、日本全国の高校生、大学生を対象とした人材育成事業「ビヨンドトゥモロー」を開催した。

(1) 奨学金事業

1. **エンデバー2019**：児童養護施設に暮らす日本全国の高校生を対象とし、進学準備に際する費用（センター試験受験料、入学検定料など）を年間上限10万円の給付型の奨学金として支給する事業を実施した。
2. **ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2019**：親との死別・離別を体験していたり、児童養護施設に暮らすなど、社会経済的に困難な状況に置かれた若者こそ、今後、人の心の痛みに想いを馳せ、世界や日本のために行動するリーダーになる資質を有しているというミッションの下、進学のための奨学金（返済不要）年間50万円を給付。モルガンルイス・バッキアス法律事務所からのプロボノ協力の下、応募要件（保護者が死亡、単親家庭である、児童養護施設に暮らしている、里親家庭に暮らしている、生活保護受給世帯に暮らしている、のいずれか）を満たしていることの確認を法的書類をもって行った。
3. **ジャパン未来フェローシップ・プログラム 2019**：上記2. のジャパン未来スカラシップ・プログラムを前年度に終了した者で、継続してビヨンドトゥモローの活動に参加することを希望する者を対象に、年間を通じて各種リーダーシップ・プログラムへの参加機会の提供や、インターンシップへの派遣、キャリア構築にむけたサポートを行う「ジャパン未来フェローシップ・プログラム」を実施した（本プログラム参加者には奨学金給付は行っていない）。

※上記事業の実施以外に、2020年度の奨学金事業の告知・選考活動を2019年度に行った。

(2) リーダーシッププログラム事業

a. エンデバー サマーリトリート 2019 2019年8月9日～8月14日（兵庫県）

1年間に渡る奨学金事業「ビヨンドトゥモロー エンデバー2019」に参加している高校生に加え、関西圏の児童養護施設に暮らす高校生たちおよび自身も児童養護施設に暮らした経験を持つ大学生たち総計23名を対象に、人との出会いの中で未来を切り開く機会を提供した。各自のこれまでの体験を共有し、自らの経験をいかに未来に活かすかについてディスカッションし、そして今後の進学や就職について共に考えることで、キャリアの選択肢を広げることを目的とし、ワークショップやディスカッションセッション、スピーカーセッション、職業体験、提言作成、プレゼンテーション／提言発表会などを実施した。大学生たちがリーダー的な役割を果たし、後進のサポートにあたることで、自分自身のリーダーシップのあり方について考えるという意義もあり、プログラム終了後も児童養護施設に暮らした経験という共通項を持った高校生・大学生たちがつながりあい、切磋琢磨しあうコミュニティの構築にもつながった。また、参加学生の代表者たちが、後日、厚生労働省を訪問し、活動内容について報告プレゼンテーションを行った。

b. 夏季グローバル研修 米国サマープログラム 2019 ～村瀬二郎記念奨学事業～ 2019年8月18日～30日（東京都／事前研修・米国）

年間奨学金プログラムに参加する大学生12名が米国を訪問し、米国の歴史や文化、社会について学んだ。特に2019年は「移民問題」をテーマにとりあげ、渡米前にアメリカの移民問題について理解を深めるための事前学習を行った他、東京での事前研修において、米国大使館を訪問したり、英語でのプレゼンテーションを練習するワークショップを開催した。ワシントンDCでは、ホワイトハウスや連邦議会、世界銀行、移民問題について研究するシンクタンクを訪問し、特別セッションに参加した他、参加学生が日本料理や文化を紹介する「ジャパン・ナイト」を企画し、海外の人々との交流の機会をもった。ニューヨークでは9.11のテロの犠牲者の家族や友人たちとの交流や、ホストファミリーと1日を過ごす交流活動に加え、移民問題に取り組む行政機関や民間団体を訪問した。そしてプログラム最終日、参加学生たちがアメリカで学んだことを、今後いかに活かしていくかをプレゼンテーションにまとめ、英語で関係者たちの前で発表した。

c. アジアサマー・プログラム 2019 2019年9月1日～9月14日（東京都／事前研修・タイ・シンガポール・インドネシア）

年間奨学金プログラムに参加する大学生8名が、東南アジアを訪問し、バンコクやシンガポールの著しい経済成長を体感する一方で、「自立支援」をテーマにタイ北部の山岳地でのボランティア活動に参加し、少数民族の若者が抱えるニーズについて理解を深めるためのフィールドワークを行った。タイ北部の山岳地では、山岳民族の子どもや孤児院に暮らす子どもたちと寝食を共にし、ボランティア活動に従事したり、文化交流を行い、プログラムの最後には、プログラムを通して学んだアジアの課題を解決するために何ができるかを考え、まとめた提言を学生たちが英語で発表するセッションを開催した。一連の活動を通して、参加者たちは経済成長を遂げるアジアの国々の様々な側面についての理解を深め、多様な人々が構成する社会をよりよくするために自分に何ができるかを考える機会を得た。

d. ジャパン未来リーダーズサミット 2019 2019年11月2日～4日（東京都）

親との死別・離別や、児童養護施設で生活しているなど、様々な事情により機会を得ることが難しい状況にありながらも、広く社会のために役立つ人材となる志をもつ全国の高校生・大学生を対象に、本サミットでは、多様な領域で活躍するリーダーたちによるアドバイスの下、「自立支援」をテーマに、提言をグループ毎にまとめ、最終日には政治・行政・ビジネス・メディア・NGOなど各方面のリーダーたちの前で発表する機会を提供。「体験共有」「スピーカーセッション」「ディスカッション」「提言作成」など様々なモジュールを通じて、幅広い領域で活躍するリーダーたちによるアドバイスの下、弱い立場におかれた若者の自立支援のために必要な施策について提言をまとめ、最終日の閉会式で発表した。年間の奨学金プログラムに参加する大学生たちがリーダーとして、高校生たちの活動をサポートする役割を果たした。

e. クロージング・プログラム 2020年2月22日～23日（千葉県・東京都）

1年間にわたる奨学金事業に参加した高校生・大学生たちが、一年間のプログラムの集大成となる「クロージング・プログラム」に参加し、1泊2日の研修プログラムに臨んだ。AI（人工知能）についての討議を行った他、1年間にわたる活動を総括した上で、今後、一人ひとりがどのような道を歩いていくかを描くためのディスカッションやプレゼンテーション作成の機会を設けた。また、これまでにビヨントゥモローへの参加経験のある卒業生たちがプログラムに参加し、ビヨントゥモローでの経験をいかにその後の人生に活かすことができるかについて考えるセッションも開催した。

f. 3月オリエンテーション・プログラム 2020年3月21日～22日（オンライン開催／一部千葉県にて開催）

2020年度の奨学金事業参加者が一堂に会し、ビヨントゥモローについての理解を深め、仲間たちとの信頼を築き、今後の1年間、自分たちが何をしたいかを考える機会を提供。新型コロナウイルス感染拡大のリスクを踏まえ、ジャパン未来フェロシップ・プログラム参加者7名のみが千葉県にてプログラムに参加し、そ

れ以外の参加者たちはオンラインのビデオ会議通話システムを使用してのプログラム参加となった。自分たちのこれまでの体験や、今後、自分たちが学びを深めたい事柄についてチームごとにディスカッションを行ったり、スピーカーを招いてのキャリアセッションを実施した。

2. 主要な事業の実施状況 (年間奨学事業)

事業名	対象者	実施内容	人数	支出額 (円)
エンデバー2019	児童養護施設に暮らす高校生 (2019 年度に 2 年次、3 年次に在籍)	高校卒業後の進学のための受験に係る費用を奨学金として給付 (上限一人 10 万円) するほか、年間を通じて、人材育成プログラムへの参加機会を提供	6 名	1,113,968
ジャパン未来スカラースhip・プログラム 2019	2019 年度に、大学・短大・専門学校に新たに進学する者で、及び、下記条件のいずれかを満たす者。 ・保護者が死亡 ・単親家庭である ・児童養護施設に暮らしている ・里親家庭に暮らしている ・生活保護受給世帯に暮らしている	年間 50 万円の給付型奨学金の支給及び、年間を通じての人材育成プログラムへの参加機会の提供	13 名	6,742,737
ジャパン未来フェロースhip・プログラム 2019	2018 年度に「ジャパン未来スカラースhip・プログラム 2018」に参加していた者。	年間約 4 回の人材育成プログラムへの参加、年間を通じたキャリアサポート、インターンシップへの参加	10 名	942,648
エンデバー2020	児童養護施設などの社会的養護の施設に暮らしている、または里親家庭に暮らしている高校生 (2020 年度に 2 年次、3 年次に在籍)	全国を対象とした告知により公募を行い、書類選考、面接選考により、2020 年度の参加者の選抜を実施	11 名	633,163
ジャパン未来スカラースhip・プログラム 2020	2020 年度に、大学・短大・専門学校に新たに進学する者で、及び、下記条件のいずれかを満たす者。 ・保護者が死亡 ・単親家庭である ・児童養護施設などの社会的養護の施設に暮らしている ・里親家庭に暮らしている ・生活保護受給世帯に暮らしている	全国を対象とした告知を行い、書類選考、面接選考により、2020 年度の参加者の選抜を実施	10 名	2,564,307
ジャパン未来フェロースhip・プログラム 2020	2019 年度に「ジャパン未来スカラースhip・プログラム 2019」「ジャパン未来フェロースhip・プログラム 2019」に参加していた者。	2019 年度「ジャパン未来スカラースhip・プログラム 2019」「ジャパン未来フェロースhip・プログラム 2019」を対象に応募を募り、書類選考、面接選考により、2020 年度の参加者の選抜を実施	7 名	395,491

(リーダーシッププログラム事業)

事業名	日時	開催場所	対象者	人数	内容	支出額 (円)
エンデバー サマーリトリート 2019	2019年8月9日 ～8月14日	兵庫県	- エンデバー2019参加者 - ビヨンドトゥモロウの活動に参加した経験をもつ大学生 - 関西圏の児童養護施設に暮らす高校生	23名	キャリアの選択肢を広げることを目的とし、ワークショップやディスカッションセッション、スピーカーセッション、職業体験、提言作成、プレゼンテーション/提言発表会などを実施	2,785,954
米国サマープログラム 2019 ～村瀬二郎記念奨学事業～	2019年8月18日 ～30日	東京都/事前研修・米国	- ジャパン未来スカラシップ 2019 - ジャパン未来フェロシップ 2019参加者	12名	社会的困難な状況にある大学生12名が米国を訪問し、グローバルな視野を養う活動に参画。ワシントンDC、NYを訪問し、アメリカの歴史や文化、社会について学ぶ。	7,178,822
アジアサマー・プログラム 2019	2019年9月1日 ～9月14日	東京都/事前研修・タイ・シンガポール・インドネシア	- ジャパン未来スカラシップ 2019 - ジャパン未来フェロシップ 2019参加者	8名	社会的困難な状況にある大学生8名が東南アジアを訪問し、バンコクやシンガポールの著しい経済成長を体感する一方で、タイ北部の山岳地でのボランティア活動に参加し、少数民族の生活について学ぶ。	4,151,388
ジャパン未来リーダーズサミット 2019	2019年11月2日 ～4日	東京都	- ジャパン未来スカラシップ 2019参加者 - ジャパン未来フェロシップ 2019参加者 - エンデバー2019参加者 - 新規応募の高校生	65名	親との死別・離別や、児童養護施設で生活しているなど、様々な事情により機会を得ることが難しい状況にある高校生・大学生を対象に、多様な領域で活躍するリーダーたちによるアドバイスの下、提言をグループ毎にまとめ、閉会式で発表する機会を提供。	5,869,428
クロージング・プログラム 2019	2020年2月22日 ～23日	千葉県・東京都	下記の内、2020年度の奨学金事業に参加しない者 - ジャパン未来スカラシップ 2019参加者 - ジャパン未来フェロ	23名	1年間にわたる奨学金事業に参加した学生たちが、一年間のプログラムの集大成となる「クロージング・プログラム」に参加し、年間の活動を総括し、今後、一人ひとりがどのよ	991,549

			<ul style="list-style-type: none"> - シップ 2019 参加者 - エンデバー2019 参加者 		うな道を歩いていくかを描き、自らの手で未来を切り開くきっかけを得るためのディスカッションを開催。	
3月オリエンテーション・プログラム 2020	2020年3月21日～22日	オンライン開催／一部千葉県にて開催	<ul style="list-style-type: none"> - ジャパン未来スカラシップ・プログラム 2020 参加者 - ジャパン未来フェロシップ・プログラム 2020 参加 - エンデバー2020 参加者 	28名	2020年度奨学金事業に参加するメンバーたちが一堂に会し、ビヨンドトゥモローについての理解を深め、仲間たちとの信頼を築き、今後の1年間、自分たちが何をしたいかを考える機会を提供。	473,355

以上